

農業農村地域における情報利活用の未来図Ⅲ

Future of Information Utilization in Agricultural and Rural Areas -Part 3-

○溝口勝¹, 杉野弘明¹

Masaru MIZOGUCHI¹, Hiroaki SUGINO¹

1. はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、地域における新しい生活の価値が見直されつつある中、農村地域における通信インフラ整備のニーズが高まってきている。こうした状況を受けて農業農村情報研究部会では令和2年度から、「農業農村地域における情報利活用の未来図」のアイデアを公募し、令和2年度は20件、令和3年度は12件の課題を採択し、そのアイデアを取りまとめた。

令和4年度も引き続き「未来図」を公募し、12件の課題を採択し、各採択課題を2023年3月3日の農業農村情報研究部会勉強会で発表してもらい、活発な議論を行った。この企画セッションでは12件の課題から3件を選び、その内容を発表してもらい、アイデアソン方式で農業農村地域における情報利活用の未来図について議論する。

2. 令和4年度の公募要領¹⁾

本部会ではまず、農業農村地域における情報利活用のアイデアを部会ホームページで2022年10月中旬～11月末日まで公募した。今回の公募では「先進地区の視察・とりまとめであってまかまいません」と明記し、農水省が進める「夏のDigi田甲子園（農業・農村関係の取組抜粋）」や「情報通信環境整備対策」に採択されている地区の情報をホームページ上で紹介した。全部で12件の応募があった。審査委員会が提案課題を吟味し、12課題全てにコメントつけて1件当たり5-20万円の補助額を決定した。

3. 勉強会の開催

決定から約3か月後の2023年3月3日（金）

にZoomオンライン方式で第47回農業農村情報研究部会勉強会²⁾を開催した。発表者にはA4で2枚の報告書の事前提出を義務付け、その内容を勉強会で報告してもらった（表1）。報告書と発表パワポ資料は冊子体として部会のホームページに公開されている。また、ホームページ上で発表者の氏名をクリックするとYouTube動画で発表の内容を視聴できる。

今年も採択課題12件が全て大学の学部・大学院生（農学部以外が数件）だった。いずれも学生らしい斬新な農業農村地域における情報利活用の未来図が提案された。

農水省事業を知ってもらうため「先進地区の視察・とりまとめ」でも良いと公募案内したが、対象地区を扱ったテーマは12件中1件だけだった。学生目線からは事業が遠い存在なのかも知れない。

一方で、ホップ栽培、ビール麦、マンゴーなどの地域特有の食材を栽培し、地域活性につなげるために情報を利活用するアイデアが多かった。特に、「推し活」をキーワードに農産物で地域社会を育むという学生の主張が斬新だった。

4. おわりに

アイデアソンを充実させるために農林水産省のホームページに公開されている「農業農村における情報通信環境整備のイメージ図」を転載しておく（図1）。企画セッションの討論の際に活用頂きたい。

参考：

1)公募要領：<http://agrinfo.en.a.u-tokyo.ac.jp/project/221005.html>

2)勉強会：<http://agrinfo.en.a.u-tokyo.ac.jp/meetings/announce-47.htm>

¹東京大学大学院農学生命科学研究科 Graduate School of Agricultural and Life Science, The University of Tokyo
キーワード：農業農村地域, 情報通信, インフラ, 利活用

表1 第47回農業農村情報研究部会勉強会（2023年3月3日開催）の発表タイトル

このうち8,11,12が企画セッションで発表予定

- (1) 小藪大臣・齋藤涼裕・深谷朱里・溜池菜々子(宇都宮大学 農学部)
那須野ヶ原用水の水路網を利用した情報通信基盤整備を契機とした循環型農村地域の創生
- (2) 佐藤稜 (岩手大学農学部)／情報技術を活用した中山間地域におけるビール麦の品質管理
- (3) 志賀智寛 (東京大学農学部)
ホップ栽培による地域ブランド化と収量最大化のための定点観測技術の活用
- (4) 加藤沙耶香・森川力太・藤井淳乃介(三重大学生物資源学部)／ウォーターモバイル
- (5) 井上慶士・小野寺渉・羽室颯太・深川智哉・藤井遥・山下都佳爽・吉井裕亮・*下浦隆裕(近畿大学農学部・*奈良県豊かな食と農の振興課)／農地でスマート農業・最新技術展示研修会
- (6) 松野大河(東京大学教養学部)・石田未優(福島大学食農学類)
土壌水分計と連動した簡易的な自動散水装置の開発
- (7) 浅野珠里・大塚健太郎(岐阜大学)／農業農村地域活性化に向けた農村GOの取り組み
- (8) 野田坂秀陽(東京大学農学部)／農村振興及び自然教育のための棚田ブランディング
- (9) 小田広希・金子想・前田泰祐(東京大学大学院新領域創成科学研究科)
「自動温湿度調節ハウス」によるマンゴーの炭疽病予防策
- (10) 長野宇規(神戸大学大学院農学研究科)／農業生産法人の農業情報ニーズ調査
- (11) 西村和海(東京農工大学)／通信インフラの整備によるデータ連携基盤との接続の可能性
- (12) 北村知子(岩手大学農学部)

農地からの情報発信が広げる推し活の輪！ ―農産物への♡で活気ある地域社会を育むために―



図1 農業農村における情報通信環境整備のイメージ図

https://www.maff.go.jp/i/nousin/kourvu/jouhoutsuushin/jouhou_tsuushin.html より